

## ウクライナ問題での南アフリカの立場は 中立ではなく非同盟

[Ukraine – South Africa is not neutral, we are non-ali... \(dailymaverick.co.za\)](https://dailymaverick.co.za)

2022年5月16日

アルヴィン・ポータス（南ア共和国、国際関係・協力担当副大臣）

デイリーマバーリック紙への寄稿

戦争を防ぐことができるのは無条件の対話のみであり、いったん戦争が始まれば、それを終わらせるには交渉しかないという明確な立場を私たちは維持してきた。

世界秩序は過去70年間、つまり最近までは、どちらかといえば固定的なものであった。2カ月前のウクライナ侵攻の前までは、第2次世界大戦後の戦勝国が支配的なプレーヤーとしてずっと世界政治を取り仕切ってきたのである。ロシアとウクライナの戦争は、ソ連の崩壊と冷戦終結で「歴史の終わり」が目前に迫っているという見方が神話であることをはしなくも暴露した。

大国は世界中で平然と力を行行使し続けている。この数十年、大国間の紛争が頻発したことは、冷戦が実際は終結していなかったことを示している。

ソ連の崩壊とともに、紛争はむしろ拡大し、他国の領土を侵害した。冷戦時代の敵対国が発展途上国の不満に付け込んで、自分たちの政策や利益を守るために派閥を武装化させ、暴力的な紛争を引き起こしたからだ。

ウクライナ戦争は、大国が代理戦争を通じて覇権を争う最新の事例である。ウクライナの場合もそうだが、こうした戦争はほとんどが国連の承認を受けない、国際法上、違法なものである。イラク、アフガニスタン、ユーゴスラビアへの欧米諸国の侵攻がその例である。いわゆる有志連合を構成する国々は、国際法の重大な違反の責任を問われることはなかった。

一方的な集団行動は、ロシアの一方的行動と同様に違法である。自由主義的帝国主義に基づく戦争は、保守的ナショナリズムに基づく戦争に劣らず違法であ

り、忌まわしいものである。

この数週間、私たちはヨーロッパの外交官による非常に気がかりな発言を耳にしてきた。ウクライナ戦争が他の戦争よりも悪質なものは、ロシアという「独裁的」な国が、「民主的」な国を侵略しているから、というのである。つまり、他の国々は政府が民主的でないため、爆撃されても仕方がないということである。これらの外交官は、その発言の中に暗黙のうちに人種差別が含まれていることにほとんど気付いていない。第二次世界大戦以降、軍事的侵略を受けた国のほとんどは、アジア、中東、アフリカのいずれかであったのだ。

植民地主義や国際連盟、さらには国連憲章をも形作ったのは文明化論であるが、それには常に暴力の刃先が伴っていた。

自由主義的帝国主義とその人種主義に関連した戦争が容認されてきたことをみれば、ウクライナ戦争とその他の違法な戦争に世界がなぜ違った反応をするのかがある程度わかる。南アフリカは、ウクライナの戦争について中立的な立場をとっているのではなく、むしろ非同盟の立場をとっている。

南アフリカの立場は一貫しており、いかなる国も侵略され、終わりのない紛争にさらされることはあってはならないというものだ。

ウクライナ戦争も、イラクやアフガニスタンに対する戦争も、大国が平然と侵略を行ったという点では同じである。これらの戦争の主役のほとんどは、国際刑事裁判所（ICC）の締約国になっていない。大国は、国際法が定める規範やルールの外で活動することを好むからだ。

ヘンリー・キッシンジャー元米国務長官は、武力行使は外交の正当な手段であり、この手段が精査を受けたり、ICCを含む国際機関によって米国が責任を問われたりすることを米国は望まない、と述べている。

キッシンジャーが明確に述べたこのことが、「終わりのない戦争」が大国の義務であるという考えのもとになったイデオロギーの本分なのである。

戦争が無限に続く様相を帯びるのは、2つの条件が満たされたときである。交戦国が目的を達成する能力を欠きながら目的を追求するとき、そして目的を達成できないにもかかわらず、交戦国が敗北する危険性がないとき、だ。この2つの条件が長期にわたって続き、明確な変化の可能性が見えない場合、終わりのない戦争が出現する。

南アフリカは、このような地政学的な現実と、果てしない戦争の拡散から免れることはできない。私たちは、戦争を防ぐことができるのは無条件の対話のみであり、いったん戦争が始まれば、それを終わらせるには交渉しかないという明確な立場を維持してきた。つまり、暴力的な紛争の軍事的な解決はあり得ないということであり、平和は政治的な解決によってのみ持続可能だからである。

「終わりのない戦争」が世界経済や「南半球」の開発問題に及ぼす影響を考えると、世界的な統治システムの変革を推進できる非同盟運動の活性化が急務である。

非同盟運動は、根強い不平等、貧困、気候変動、大量破壊兵器の拡散といった問題に効果的に対処するために、変化を起こすことのできる国際主義を支持しなければならない。

南アフリカの外交政策は、我々の基本的な価値観から導き出された原則に基づき、国民のニーズから情報を得ている。これらの指針によって、私たちは外交政策のスタンスに一貫性を持たせることができる。この種の一貫性には強みがある。自分たちの行動を説明し正当化することができるからだ。

時には友人や同盟国と対立することもあるだろうが、私たちは、人権と国際法、国家の平等へのコミットメントに導かれた立場を取っている。この事実に自信を持っている。(了)

【翻訳 田中靖宏】